

インタビュー シリーズ

「にじっこ」 林とも子さん

(NPO法人 好きと生きる 理事)

取材日 2020年11月9日



こういう活動している根本にあるのは、亡くなった娘のこと。今こうやって、子どもたちと出会って、ほんまに今ここにこうやって生きていてくれることが、私にとっては全てで、宝。

不登校の子ども達の居場所づくり「にじっこ」の活動。この活動を担当されている、NPO法人 好きと生きる理事の林さんからお話をお伺いしました。

※NPO法人 好きと生きる

「好きなひと・好きなもの・好きなことと共

に好きな地域で生きる」をテーマに、生きづらさを抱えた人や、不登校の子ども達の居場所づくり等の活動をしているNPO法人。

「にじっこ」は基本的に完全に自由。来た子どもたちがその日にしたいこと、好きなことをして過ごすところ。

Q「にじっこ」では、どういった取組をされていますか？

林さん 「にじっこ」は、今現在、月8回活動していて、場所が長浜、米原、近江八幡、大津の4か所。対象が小中高生で、中高生だけの日も月に2回ほど設けていて、後は誰が来てもいいっていう形にしています。それで見守り隊って大人が3人ぐらいいて、そこに来る子どもたちと遊んでいるっていう、「移動居場所」みたいな感じで。コロナの関係で、食事を挟むことが厳しくなったので、現在は13時から16時の3時間開けています。

「にじっこ」は今、基本的に完全に自由にしていて、来た子どもたちがその日にしたいこと、好きなことをして、自由に過ごすっていう感じ。

普段からずっと毎日学校お休みして

いて、お家で過ごしている子どもたちも来てますし、普段は登校しているけど、「にじっこ」の日だけ休んで来る子どももいて、色々なタイプの子たちが来ます。

不登校の子どもしんどいけど、学校に来てる子どもしんどいんやなって。

Qこの活動をされたきっかけは？

林さん もともと学校の教員していましたが、娘の病気と障害が重くて、学校の教員を辞めたんです。娘が亡くなった後にもう1回学校に復帰して、学校でまた子どもたちと出会って、不登校の子どもしんどいけど、学校に来てる子どもしんどいんやなって気づいて、じゃあ、このしんどい子どもたちが、学校とお家以外の行ける場所があったらいいなあと思って、学校の教師をやめて作ったのが「にじっこ」です。

「にじっこ」では勉強は一切しない。生活の全ての中に「学び」ってあると思う。

Q活動のなかで大事にされていることや思いは？

林さん 私たちが一番大事にしていることは、絶対に子どもを否定しないっていうこと。怒鳴りつけて上から押さえつける

とかはしないってというのは、徹底して意識していることなので、とにかく子どもたちは、ここにいる間は抑圧されたりとか、恐怖心で押さえつけられるっていうことがないように、安心して過ごせる場ってというのはいつも意識していること。

「にじっこ」では、勉強は一切しないです。したいっていう子がいたらしますけど。勉強っていうのも、捉え方なんですけど、私の中では、ほんとに生活の全ての中に学びってあると思うので、学校の教科学習だけが勉強じゃないっていうところもあって。

「にじっこ」でもコミュニケーションっていう点はすごく大事にしている、やっぱりトラブルもたくさん起きるので、子ども同士なので、喧嘩もしますし、全部、それは学びのきっかけとして捉えて、私たちも一緒に考えるというスタンスでやっています。

今はもうテレビゲームされているお子さんがほんとに多くて、それが（コミュニケーションの）きっかけになることが多いですね。なので、うちはゲーム禁止とか、何時間までとか、一切制限していません。でもそのおかげでつながれて、コミュニケーションとれている子も多いんで、すごく良いツールだなと思っています。ゲームから得ているものとか、学んでいるというか、遊びでやっているんですけど、その子の価値観

をつくったりとか、思想をつくったりしているの、一方的に、「テレビゲームあかんぞ」とかは、私は全然思っていないくて、むしろゲームやりたいだけやった方がいいんじゃないかって。

「大人がなんでもできるで」みたいな感じじゃなくて、失敗したりとか、できないことを全部見せるようにするのがすごい大事。隠すんじゃないで、全部さらけ出しておくと、子どもたちが、「ああ失敗してもいいんやな」「こんな失敗しても、こんな楽しく生きてはるんや」とみたいな風になってくれる。大人やからこんなんでいいんじゃないかって、むしろ見せていっている感じ。なので「見守り隊」って言ってますが、実際は子どもたちに見守られているんですよ。私たち「見守られ隊」やなくていつも言ってます。

「にじっこ」が選択肢の一つになればいいな。学びたい気持ちをサポートするフリースクール「虹の学び舎」も始めました。

Q 最終的には、学校に行くように促すことも？

林さん 全くしていません。学校復帰を目指しているような機関もあるんですけど、私たちはそこは真逆で、学校には行きたくなったら行ったらいいし、行きたくな



「にじっこ」では、子どもたちが、それぞれに自分の好きなことをして、安心して過ごしています。

なかつたら行かずに、他の選択肢として。その選択肢も「にじっこ」だけじゃなくて、他にもいっぱい居場所とか、フリースクールとかがあるので、その選択肢の一つになればいいなと思って。

「にじっこ」に来て、自分のことを完全否定していたお子さん、すごく傷ついてきたお子さんが、充分に自分が認められたりとか、安心して過ごせる場がある、自分のこと認めてくれるって知って、また学校に戻る子もいますし、戻らずにずっと「にじっこ」だけに来ている子とか、「にじっこ」だけじゃなくて、たくさん居場所に日替わりで行ってる子とかもいます。

「にじっこ」で充分休めた子どもたちが、次は学びたいっていう段階になった時に来られる場所を作りたいなと思って、「虹の学び舎」というフリースクールも昨年8月に立ち上げました。子どもたちが本当に好きでやりたいということをサポートし

たいので、「虹の学び舎」ではカリキュラムも自分たちで決めます。

親子で来られたら、お母さんたちは親の会でお話をされて、子どもたちは「にじっこ」の部屋に。

Q 相談には、保護者の方が来られることが多いですか？

林さん そうですね。もともと「にじっこ」を子どもの居場所として開きたいなって思ったときに、小学生に来てほしいけど、小学生が来るには親御さんが連れてきてくれないと来られないなって思って。そこで出会ったのが、今、「不登校の親の会 c o t t o n (こつとん)」を隣りでやっているんですけど、その主催者の藤田さんだったんです。藤田さんと出会ったことで、「私、親の会始めたよ。」「私も「にじっこ」始めたいと思ってるよ」って。でも子どもが「にじっこ」に来たら、親御さんどうしよう。親御さんが親の会にきたら、子どもたちを家に置いて来られない。じゃあ一緒にやったらいいんじゃない？ってコラボで始めたのがきっかけ。

親子で来られたら、お母さんたちは親の会でお話をされて、子どもたちは「にじっこ」の部屋に来る。別室っていうのを基本にしているんです。やっぱり不登校のお子さんだと、24時間家で一緒だったりす

るので、せめてこの時間だけは離れて過ごすっていうことをやっています。

保護者さん、もうめちゃくちゃ悩んでおられるので。どこかで責められ、学校来てくださいって言われたりとか、色んなことがあって。悩んでおられることとか、お子さんのことで、どうしよう、わからない、答えがないっていう時に、他の同じ立場のお母さんの話聞いたり、先輩お母さんの話聞いて、「あ、そういう考え方もあるんや」とか、「こういう選択肢もありなんや」とか、ほんまにこの親の会ってすごく大事で、私も助かっています。

学校がトップにあって、学校行けない子がフリースクールや居場所に行ってる、っていう構図がまだまだある。そこを横並びにしたい。

Q 活動のなかで一番難しいところは？

林さん どうしても、「にじっこ」は自由な場所だから、「にじっこ」みたいな場所があるから、そっちに行っちゃやうやんっていう考え方もなかなかはおられる。そうなった時に、大事なことはそこじゃないって伝えるのが、なかなか伝わらないっていう。

ほんまは連携とりたいんですよ、一番は学校とか地域とか、私たち民間でやってい

るものと、学校と家庭と行政と、全部つながっていたいんですよ。全然敵じゃなくて、学校に行きたい子は行ってる、居場所来たい子は来てる、自宅で過ごしたい子は自宅にいるっていうだけのことなんで、そこを全部横並びにしたいんですよ。今、学校ありきの社会なので。子どもたちを取り囲んでいるものがみんなつながっていらしいなと。

横並びって考えた時に、学校がトップにあって、学校行けない子がフリースクール行ってる、居場所行ってる、っていう構図なんで、まだまだ。学校行ってる子が○で、居場所とかフリースクール行ってる子は△とか×みたいなのが、まだまだ残ってるんで、そこを横並びにしたい。

何かができるとかできないっていうことって、人の値打ちと全く関係ない。今ここにこうやって生きていてくれることが、私にとっちは全て。

Q 今後の目標や思いは？

林さん 私が思っているのは、こういう居場所活動っていうのがなくなるのが目標なんです。居場所活動っていうのをわざわざ誰かがしなくても、各地域に、昔やったら近所のおばあちゃん家に行ってくるとか、そういう居場所が自然にあったの

で。

やっぱり家族から愛されている子もいれば、「生まなかつたらよかった」って言われているお子さんもいる。こないだもそういう子が話しに来てくれて、「でも、ほんまに生まれてくれて良かったって私は思ってる」って伝えられた。

私がすごく大事と思っているのは、今、自死の問題とかたくさんありますけど、「死にたい」って思うことは悪いことじゃないし、思ってもいい、「死にたい」って思ったらあかんで「って絶対言いたくないんですよ。私は、その「死にたい」って思う気持ちをも、どこか誰かに話せることが一番大事だと思うんで、そういう人とかそういう場に出会ってほしいと願っていて、だからこないだそうやって「死にたい」って思ってる」って来てくれた子は、私もむしろ感謝だったし、「よく話しに来てくれたな」って思えた。

私が今こういう活動している根本には、亡くなった娘のことがあって、9年前に亡くなったんですけど、6歳で。病気と障害がすごく重くて、私、24時間365日ずっと、介護と看護で目が離せない状態だったので、ずっと一緒に過ごしていたんですけど。やっぱりその娘の存在があって、一緒に生きてきた6年があって、娘と一緒にいたから、何かができるとかできないっていうことって、人の値打ちと全く関係ない

なって感じた根底になった。今こうやって子どもたちと出会って、ほんまに今こうこうやって生きていてくれることが、私にとっては全てだし、宝だし、学校に行ってるから1日出席したからOKとかじゃなくて、今、この世界に生きていた1日はみんな一緒に、そこをみんなが認めてもらえるような社会になったらいいなっていうのが一番大きな根っこにある。

もう1人流産した娘もいて、2人亡くしているんですね。今、地上には子どもはいないんですけど、今出会っている子どもたちが本当にわが子みたいに大事やし、子どもたちが何かで苦しんだりとか、しんどい思いをしているっていうのは、私が耐えられないんで、できることがあるんなら何でもやりたいなって思っていて、なので、私は娘たちのおかげで、今の全ての活動があります。

コロナの期間があったことで、今後の選択の幅を広げるチャンスじゃないかな。

Q コロナ禍で何か変化はありましたか？

林さん コロナによる休業開けに、学校に行けなかったり、困ってるという相談はすごく増えています。新規のお子さんや親御さんが来られていて、人数も増えています。いる状態です。

ただ、コロナの期間があったことで、例えばオンライン授業とか、今までなかった他の選択肢が増えたと思うので、今後の選択の幅を広げるチャンスじゃないかなとは思っています。例えば、学校で、大勢いる教室が苦痛な子でも、お家でオンラインで授業風景も見られて、授業も受けられたら勉強はできる。だったら学校に行く必要はないっていうところも認められるので、そうやっていいところは認めます。一律に、勉強は学校に行かないと、授業受けないとできないとかじゃなくて、いろんな方法があるってことをみんなが気づけるチャンスだったかなとは思っています。

●不登校の子ども達の居場所
「にじっこ」

●小さな学校「虹の学び舎」

YouTube「林ともこ」

TEL
090-4769-0521

E-mail
a.chan.no.niji@gmail.com

●NPO 法人好きと生きる

ホームページ
<http://sukitoikiru.com>